

平成30年度の重点目標達成に向けたテーマ及び具体的な取組（学年・分掌版）

学 年・分 掌 名： 進路指導部

記入者氏名： 高橋 史

本年度の重点目標

人材育成と自己実現

すべての教育活動を通じて人材育成を図り、人格の完成と自己実現を支援する

*** 実践指針**

すべての教育活動において「追究姿勢の育成」を念頭に置き、これを通して、先行き不透明な時代に挑戦し、自己と社会の未来を切り拓く人材（21世紀人材）の育成を図り、人格の完成と進路目標の達成を含めた自己実現を支援する。

*** 具体的な手立て**

（今年度、重点的に取り組む番号に○印 複数可）

- ① 多様な能力を活用する授業等を通して学力の向上を図る
- ② 各種追究活動を通して自己啓発の意欲と追究姿勢の強化を図る
- ③ 深い生徒理解を基盤として自己実現を支援する
- ④ 社会貢献活動等を通して地域や社会に信頼される人材の育成を図る
- ⑤ 部活動など特別活動の活性化を通して豊かな人間性を育む。
- ⑥ 国際交流の活性化を通して情報活用力を含めた国際性の育成を図る

月	各学年・分掌のテーマ及び具体的取組の作成及び実践
4 9 月	<p>(テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒と教員の協同的な進路実現を図る ・授業改善の推進 ・新課程入試への対応 <p>(具体的取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力を着実につけるために授業第一の意識を生徒、教員とも高める。 ・面談を重視し、さまざまな状況に対応できる関係を築く。 ・現在、実施している様々な取り組みの意義をもう一度見直し、改善していく。 ・入試情報を積極的に集め、職員間で客観的に分析、共有する。 ・共有した情報をもとに、今後の在り方を話し合う雰囲気醸成する。 ・他の分掌との垣根を出来るだけ取り払い、生徒への情報提供の一本化を図る。
10 月	<p style="text-align: center;">各学年・分掌のこれまでの実践に対する検証</p> <p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の入試改革に関する情報についてその都度得た情報を、可能な限り、職員会議等で伝達するとともに、日常の会話で話題にすることで共通理解や、今後の学校としてのやり方とともに考える機会を増やした。 ・今年度入試にむけて3学年との連携を意識的に深め、学校全体の協力体制を築こうと試みた。AO入試等はまだ始まって間もないが、生徒の面談練習などでは、様々な方の協力を得ながら実行できている。冠模試の受験生を例年より大幅に増加することで、生徒への難関大学への意識向上を図っている。

検証をふまえた改善のための実践及び次年度に向けて

10
|
2
月

(改善のための具体的取組)

- ・ 1年生の入試改革への対応について
いまだに各大学の決定がほとんどなされていない状況である。今後も引き続き、客観的に情報を集めたいと、来年度の年間計画を慎重に検討していく。出来るだけ様々な方の意見を聞いて決定していきたい。
- ・ 今年度入試にむけて
これからAO入試等の個人指導が増加してくるので、今以上に学年、分掌をこえた指導が出来るような雰囲気づくりをしていきたい。
添削等の個人指導も同様である。
弱気にならぬよう(少なくともセンター試験までは)、向上心を持続させていきたい。
2学期末の出願検討会については、学年部の意向を尊重して、実施するかどうかを検討していく予定である。生徒との面談や学年部内のコミュニケーションが出来ている場合は不要と考えている。
AOの入試結果が出た後の、対応を今から考えておきたい。
- ・ classiについては来年度使用するか廃止かから検討したい。

(次年度に向けて)

- ・ 長期休暇中の補習については、土曜日実施の是非、実質的に授業を実施することの是非についての意見があったが、今までの共通理解事項を職員同士で確認していなかったことを反省したい。前期4日間、後期4日間については今まで何度も審議しての現在であること、授業を実施することについては進捗確保の観点から教科によってはやむを得ないこと等をいま一度確認したうえで今後改善出来るかどうか話し合いたい。
- ・ 新入試についての情報収集と情報発信を随時行っていきたい。当初は大きな変化ということであったが、いまだに未定の部分があるにせよ、学力をしっかりとつけることが第一であることは従来通りであるので、まずはその部分をしっかりと伝えていきたい。冷静に対処していく必要がある。
- ・ 英語の外部試験への対応は、来年度夏頃までに各大学の取り扱い方が出さろうと思うのでその後の対応を英語科と連携して迅速に行いたい。
- ・ 東北大のAO入試については、年々厳しさを増している。受検者の再現答案を提出させるなどしてわれわれ教員の指導スキルの向上も考える必要がある。
- ・ 二年部の学習合宿は生徒アンケートで好評であった。従来通りの強い指導を求めている生徒も一定数いる。以前より生徒の自由な時間が増加しているが自主性が増したとはいえない状況なので、より一層様々な手立ての工夫が必要と思われる。
- ・ classiは来年度は廃止の方向で検討、提言したい。

(外部評価) 2月26日(火) 学校評議員会・学校評価委員会の評価

- ・ 進路指導部 評価はB○
- ・ 保護者・生徒の自由記述を読むと「職員室での先生方の態度がつめたく入りづらい」「先生の嫌味がきつく授業も億劫」「生徒のやる気を削ぐような発言」などの記述があり残念です。
- ・ 学力層の多様化は今後も続いていく課題です。先生方の知恵を出し合い創意工夫をお願いしたい。
- ・ 保護者アンケートには3年次の面談の内容を充実させて欲しいなどの要望も見られる反面、親切丁寧な対応に感謝の言葉も多く見られます。生徒や保護者の不安を早いうちに解消できるような開放的な窓口の常設や、教員以外の進学相談員の配置等で教職員の負担を軽減させることが大切ではないかと感じました。進学については国公立の合格を勧奨しているように感じますが、金銭的余裕のある家庭では入学当初から私学を希望する生徒もおり、本人の希望を詳細に把握し目標達成に向けて効率の良い学習環境を整え、挑戦させて欲しいと思います。
- ・ 一般入試での目標達成を願っています。
- ・ 評価の指標が国立大学を中心に据えられているように感じられる。様々な軸からの評価が求められているように感じられます。中下位層への一層のフォローが必要になってくるのかもかもしれません。